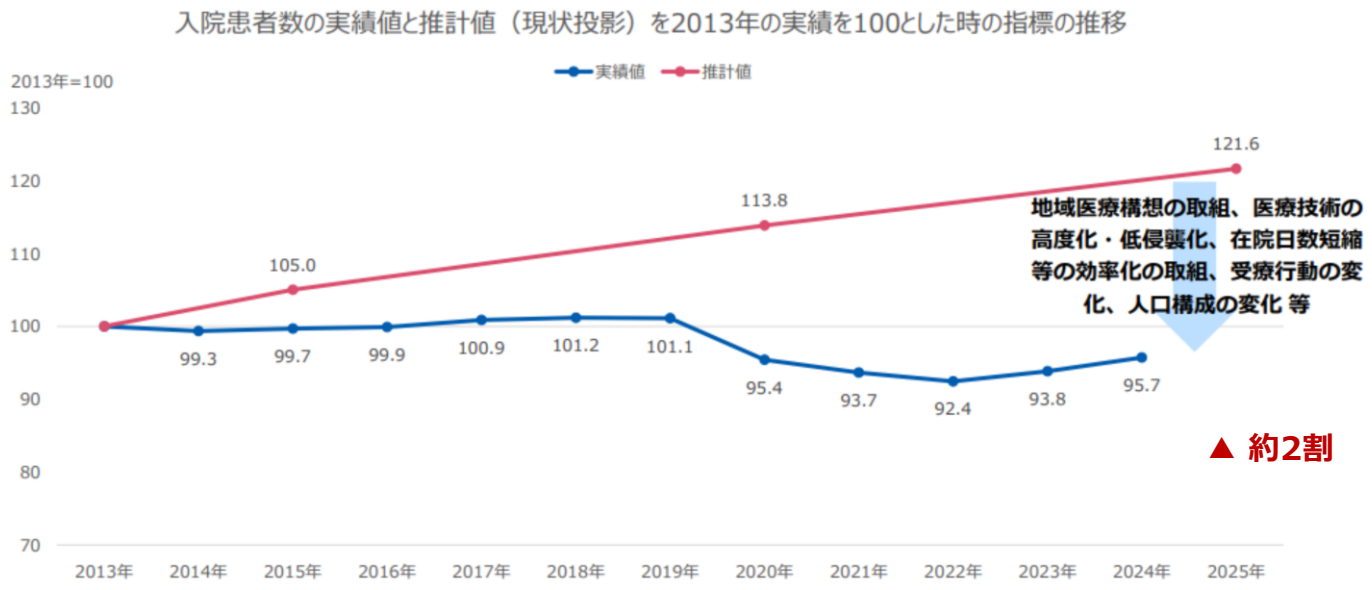
改革モデルの実現可能性について

参考資料P18・P20抜粋

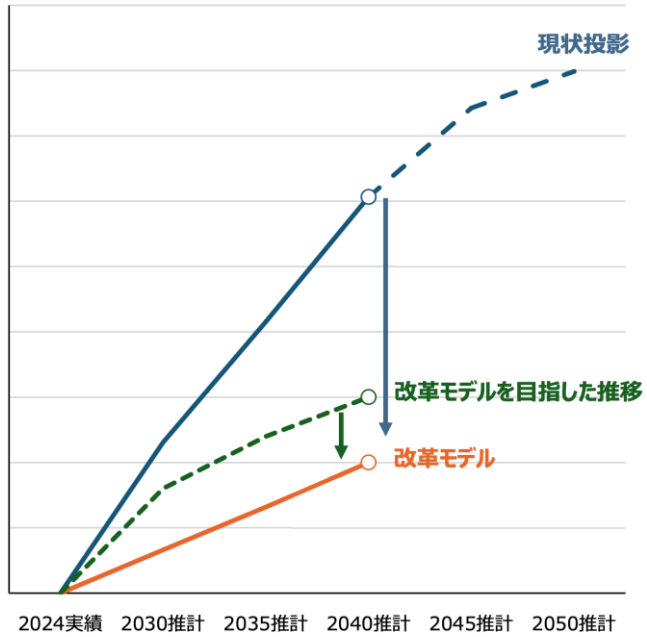
現構想では、2013年度のデータに基づく推計値に対し、実績が大幅に下回って推移した（左）。今回の改革モデルが見込む圧縮幅は、この実際に生じた乖離よりも小さく（右）、達成困難な水準とまでは言えないと考えられる。

① 現構想（2013年度 → 2025年）｜推計と実績に何が起きたか



2013年度データに基づく2025年の推計値は 121.6（2013年＝100）。これに対し2024年度の実績は 95.7 と、高齢化が進むなかでも2013年の水準を下回った。**推計は現実を約2割上回っていた。**

② 新構想（2024年度 → 2040年）｜今回の推計



改革モデルは、2040年の現状投影 14,838人／日 に対し 12,492人／日。
圧縮幅は▲15.8%（必要病床数ベースでは▲18.1%）。

前回、現実は推計を約2割下回った。今回の改革モデルが見込む圧縮幅は▲15.8%であり、過去に実際に生じた変化の幅の内側にある。

出典：（左）令和7年10月15日「地域医療構想及び医療計画等に関する検討会」資料（実績値：厚生労働省「病院報告」／推計値：2013年度NDBデータ等を基に厚生労働省医政局地域医療計画課において推計）／（右）沖縄県地域医療構想に係るデータ分析業務（株式会社日本経営）　※乖離幅・圧縮幅は事務局試算